



2021年10月29日

各位

会社名 川崎近海汽船株式会社
 (コード番号 9179 東証第2部)
 代表者名 代表取締役社長 久下 豊
 問合せ先 経営企画部長 野底 康弘
 (TEL:050-3821-1447)

2022年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想との差異
 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2021年7月30日に公表いたしました2022年3月期第2四半期累計期間の業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、2022年3月期通期の業績予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2022年3月期 第2四半期連結累計期間の業績予想との差異

(2021年4月1日～2021年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 19,800	百万円 150	百万円 150	百万円 140	円 銭 47.69
今回発表実績 (B)	20,130	728	727	539	183.68
増減額 (B-A)	330	578	577	399	-
増減率 (%)	1.7%	385.7%	385.3%	285.1%	-
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2021年3月期第2四半期)	18,154	235	132	462	157.49

2. 2022年3月期 通期連結業績予想の修正 (2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 40,450	百万円 850	百万円 850	百万円 610	円 銭 207.80
今回発表予想 (B)	42,000	1,400	1,350	950	323.63
増減額 (B-A)	1,550	550	500	340	-
増減率 (%)	3.8%	64.7%	58.8%	55.7%	-
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期通期)	37,059	404	187	△ 112	△ 38.47

3. 修正の理由

当第2四半期連結累計期間の業績につきまして、売上高については、近海部門では市況の上昇が続き、運賃収入や貸船料が増加したことで前回発表予想を上回り、内航部門でも、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、荷動きは堅調に推移し、フェリー輸送では旅客数や乗用車数が増加したことで前回発表予想を上回りました。また、売上原価については、近海部門での積地のロシアにおける滞船の影響などで船隊の稼働率が落ちたことによる燃料消費量の減少や、内航部門での入渠費などの減少により、前回発表予想における数値を下回り、以上から、売上高、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益は、それぞれ前回発表予想を上回る結果となりました。

通期連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響は依然として一定程度継続すると見込まれますが、最新の燃料油価格や足元の荷動きの想定に基づき見直しを行いました。近海部門では、市況の上昇が続き、運賃収入や貸船料が増加することで収支は前回発表予想を上回る見通しとなり、内航部門では、荷動きは堅調に推移すると見込まれ、燃料油価格の上昇が予想されるものの、収支は前回発表予想を上回る見通しとなります。一方で、OSV 部門では予想されていた海洋調査業務の遅れなどによる稼働率の低下により、前回発表予想を下回る見通しとなります。以上から、売上高、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益は、それぞれ前回発表予想を上回るものと予想し、上記のとおり修正いたしました。

なお、修正にあたり前提条件を次のとおりに見直しております。

「第3四半期以降」為替レート：1ドル＝110円（前回公表時110円）

燃料油価格：75,000円/KL（前回公表時70,200円/KL）

(注) 上記の業績予想は、当社が現時点において合理的と判断するデータに基づいて作成しており、実際の業績は今後の様々な要因により異なる可能性があります。

以上